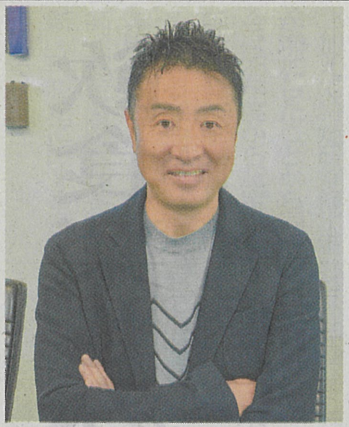
医療・介護分野ロボット開発に挑戦

中高生製作チームと連携

ヤブシタHD



「社会に貢献できるサービスを作りたい」と語る森忠裕代表取締役社長

ヤブシタホールディングス（札幌）は日本メディックス（千葉）をグループ傘下とし、医療・介護分野に参入した。札幌市を拠点に活動する、中高生中心のロボット製作チーム「Yukikaze Technology」と連携し、トライ＆エラーの精神で医療・介護の小規模だが独自性のある需要を満たすロボット開発に挑む。

室外機に取り付ける防雪フードといったエアコン周辺部材を手掛け、クライアントの要望に応えたオーダーメード製品で業界トップメーカーになった。「社員第一」をモットーに給与面から出産祝い、社内託児所など、社員が安心して働ける環境を作る傍ら、未来の世代への投資として、ヤブシタグループが運営するイノベーション拠点「N6 新雪CREATION GALLERY」（西区二十四軒4条5丁目）で若手クリエーターが自由に開発でき、お互いを刺激し合えるコミュニティを提供している。

「全国で高齢化が進む中で何か役立つ、社会に貢献できるサービスを作ろうと昔から思っていた」と森忠裕代表取締役社長。2021年に始めた家族見守りサービス「そっとねっと」で医療・福祉業界に参入したものの、建設業界とは異なる風土に早期撤退した苦い過去を持つ。その経験と、以前から持ち続けていたロボットを作りたいという思いが、日本メディックスを傘下としたことで再燃し、もう一度医療業界へ挑戦するきっかけになったという。

Yukikaze Technologyと、若手ITクリエーターの発掘育成を担う一般社団法人新雪、そして海外ベンチャーと組み、8月から本格的に開発を始める予定。具体的内容は未定だが、現場職員の業務補助や、日本メディックスが得意とする整形外科・リハビリテーション関連のロボット開発を目論む。森社長は「とにかくヒアリングを重ねて作る。現場の人に試してもらい、それを基に作る。スピードが命」と意気込んでいる。

（住友徹平）